

感情の蛇

感情の蛇が しめった、真紅の巣穴でねむっています
じぶんの蜷局の中で ねむっています

感情の蛇は

泳ぐのがにがてです
飛ぶのがにがてです
這うのがにがてです
ころさないでいどに ぼくを食べて生きています

ぼくの供給はいくらでもあるわけです
たとい、ねむりつづけても
死なないでいどには 生きていけるようです

感情の蛇がめざめると

ぼくは眠りにつきます
ねむったまま、蛇の夢をみえています
夢なわけですから、あばれる蛇を、身を焼く蛇を
どうすることもできません

めざめた蛇は、あさましいです
おぞましいです
すさまじいです
なさないです
えげつないです

地味で、陰気ないきものです

蛇悪で、およそ

自制というものを 知りません

加減というものを 知りません

また、睡魔に襲われるまで

手がつけられないのです

ぼくのを構成するものは
おそらく、

蛇の抜けでた むけがらで編まれています

むけがらなわけですから、
蛇じたいを 退治することはできません
また、
飼い馴らすことも、ごくまれにしかできません

起きだすまえが いちばん眠いのです
めざめるまえが もっとも深いのです

さいわいなことに
感情の蛇は、まだねむっています
じぶんで巻いた蜷局のまんなかで
すなおな、
おりめただしい寝息を立てています

香川 真澄